

令和2年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」実証事業  
「自立を目指す女性のための“学び直し”を通じたキャリア支援事業」  
成果報告書

公益財団法人せんだい男女共同参画財団

## 1. 趣旨・目的

当財団が運営している仙台市母子家庭相談支援センターや、エル・ソーラ仙台の女性相談、若年無業の未婚女性を対象とした自立支援事業で出会ってきた女性たちの中には、様々な傷つき経験に加え、10代で十分な学びの経験を得ることができなかつたため、自己肯定感が低く、自分の力だけで困難な状況から抜け出すことが難しいケースが多く見られる。女性は本人の責任にのみ帰すことができない社会の構造的な問題が原因で生きづらさに悩み、貧困に陥る可能性が高い。

学びの経験が積めず、勉強の仕方が分からない人にとって、自分で資格取得の学習をすることは困難である。ここ数年求人数が増えているとはいえ、多くは中卒や高校中退などの学歴やスキル不足がネックとなって応募資格さえない。

既に指摘されているとおり、正社員の経験があっても、一旦中断すると再就職先はアルバイトなどの非正規雇用となりやすく、再チャレンジがしにくい現状がある。

本事業は、一人ひとりの状況に合わせてカスタマイズした伴走型の学習支援による基礎学力の向上及びキャリア支援により、社会参画・就業等の選択肢を広げ、女性の再チャレンジを支援するものである。各種試験等の合格率だけを成果とするのではなく、「学び方」を学び、学び直すことによって、生き方を自分で選択し、何度でも自らチャレンジできる力を養うことができると考える。それぞれが思い描く最終的なキャリア目標に向けた取組の、最初の一步を後押しするものである。

また、事業プロセスや連携体制等について、下記のとおり検証・分析を行う。

(1) 女性の多様なチャレンジを総合的に支援する仕組みとして、「キャリア支援」「個別学習支援」「座学プログラム」「職業体験プログラム」を提供する。この仕組みの有効性について、参加者へのアンケートや、各支援担当者からのフィードバックにより検証・分析を行う。

(2) 「座学プログラム」と「職業体験プログラム」により、集団学習の要素を組み込むこ

とで、グループダイナミクスがどのように発揮されるのか、分析を行う。

(3) キャリア支援者及び学習支援者による連絡会議を通し、対象者が直面している課題の把握、対応方法等を検討するとともに、連携体制についての検証を行う。

## 2. 事業検討の背景

平成 30 年度・令和元年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」実証事業として、「自立を目指す女性のための“学び直し”を通じたキャリア支援事業を実施した。2 年間の事業実施から、10 代で十分な学びの経験を得ることができず、困難な状況にある女性たちが自分の力で生きていく力を養い、進んでいくために、基礎学力の向上に向けた学びが効果的であることを実証することができた。一方で、課題として下記 5 点が認識された。

### (1) 対象者へのアプローチ

参加者募集の際、対象者に本事業の情報を届けることが困難であった。自らインターネット等の支援情報にアクセスできる環境・状況にない対象者も多く、ホームページや SNS ではなく、信頼できる第三者から情報を届ける必要がある。また、情報が届いても「学ぶ」こと自体に抵抗がある場合も多く、学び直しの事業に自ら足を踏み入れることは稀である。

エル・ソーラ仙台や仙台市母子家庭相談支援センターでキャリア相談等を既に利用している人については、スタッフや相談員との信頼関係が構築できているため、スムーズに事業参加への誘導ができた。同様に対象者と接点があると思われる女性支援団体や子ども支援団体との連携が必要であり、支援者に対し、学び直しがどのように本人のキャリア形成に役立つか、また、安心して通える環境であることなどを丁寧に説明することが重要である。

### (2) 深刻な状況下にある参加者の増加と支援団体との連携

支援団体経由の参加者については、様々な困難が複合的に見られるケースが多かった。支援者を通じて潜在化していた対象が掘り起こされた結果とも言える。参加者 21 名のうち、10~40 代の 7 名が生活保護を受給していた。生活保護受給者の場合、ケースワーカーによる就業指導と、当センターのキャリアカウンセリングを同時に受けているケースがある。中には、キャリアカウンセリングで適性を探っている間に、ケースワーカーに促され就職活動を始めたが、就業には結びつかなかったケースも見られた。また、学習支援により専門学校に合格後、どのように学費を捻出するかなど、新たな課題も出てきた。様々な社会支援制度や、生活保護についての知識も必要となるため、福祉分野の機関との連携も必要である。

### (3) 若年層へのリプロ教育の重要性

参加者の中には、性暴力の被害者もあり、心理面や体調面で不安を感じながら学んでいた。そのような場合、まず生活リズムを整えるところから始めなければならず、学習が途切れがちになり、コンスタントに学習回数を重ねられなかった。

また、自己肯定感が低下していると、自分の身体を大切にできる意識も乏しくなる。特に若年無業の未婚女性については、学習支援だけでなく、性や身体を含めて自分を大切に、自分らしく生きるために、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて伝えていく必要がある。

### (4) 学習継続が困難なケース

平成30年度、令和元年度ともに学習継続が困難となり、途中終了する人が数名いた。多くが母子家庭の母であり、本人や子どもの体調不良や家族の介護などが原因で学習を続けることが困難な状況に陥っていた。他者から期待され、自分自身もとらわれている「母役割」やジェンダー意識から抜け出すための働きかけも必要である。また、生活保護を受給していたり、母子支援施設やシェルター等に入居しているなど、生活基盤が安定しない人ほど学習の継続が困難であった。

### (5) 支援者側のジェンダー意識

自己肯定感が低下していると、支援者の言動に敏感になり、参加している女性たち自身がとらわれているジェンダー意識ともあいまって、支援者の意図とは異なった受け取りをすることもある。行政組織、NPOなどの支援者は、ジェンダーに敏感な視点で、本人が自ら決定する力を引き出し、再チャレンジを支援することが重要である。

特に(2)のような早急な就職活動は、職種と本人の適性とのミスマッチから、早期離職や離職による更なる自己肯定感の低下を招く恐れがある。また、(3)のようにリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を伝えることも重要である。これらの顕在化した課題を踏まえ、「就業体験プログラム」及び「座学プログラム」を追加し、令和2年度も引き続き実施した。

## 3. 事業の概要

### (1) 対象者

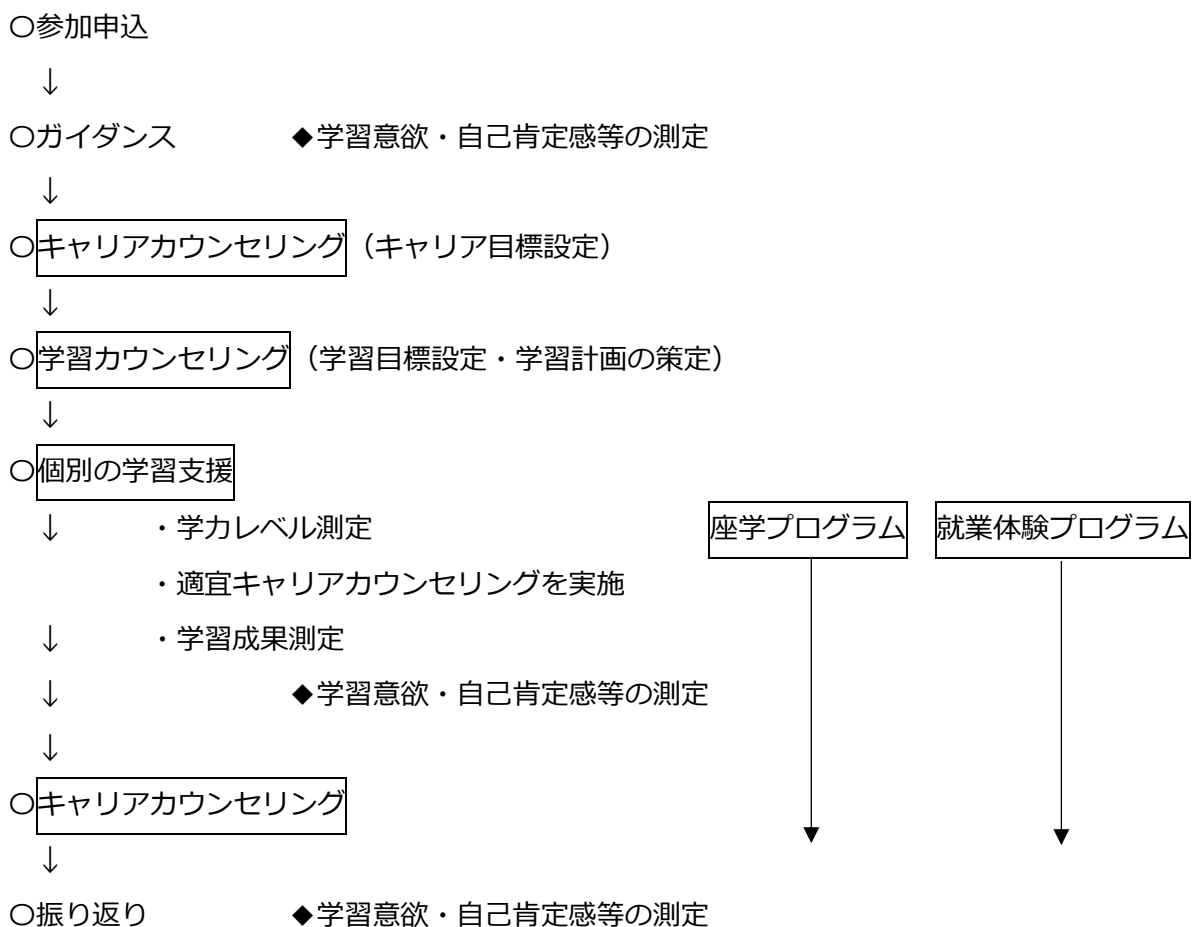
- ・高校中退・中卒者等、10代で十分な学びの経験を得ることができなかった女性

- ・ 想定される主な対象者は、
  - 就業・転職を目指す母子家庭の母
  - 生きづらさ・働きづらさを感じている若年無業の未婚女性 など
- ・ 学歴と実際の学力との乖離の可能性があることや、対象を限定しすぎないように、参加者の募集に際しては「学び直したいと考えている、就業・転職を目指す女性」とした。

(2) 実施内容

- ・ (1) の対象者に対し下記の4つのコンテンツを、参加者の状況や希望により組み合わせて提供した。
  - 個々の状況に合わせたキャリア目標の明確化と就業に向けたキャリアカウンセリング
  - キャリア目標に合わせてカスタマイズした伴走型の個別学習支援による学び直し
  - リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点等を盛り込んだ座学プログラム
  - 就業体験プログラム

(3) 事業の流れ



#### (4) 参加者の募集と参加の決定

- ・参加者の募集にあたっては、エル・ソーラ仙台女性相談、仙台市母子家庭相談支援センターの利用者や、当財団で実施している働きづらさや生きづらさを抱える女性対象の講座の過去受講生への声掛けの他、市内の女性支援団体・子ども支援団体に声掛けを行い、対象者への情報提供と参加への後押しを依頼した。ところが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、支援団体が通常の支援活動をできる状況になかった。支援団体経由の申込が少ないことを踏まえ、ホームページによる広報や、地元新聞への取材記事掲載など、新たな取り組みを行った。

#### (5) 実施方法

##### (a) キャリア支援

(担当：仙台市母子家庭相談支援センター 就業自立相談、エル・ソーラ仙台 就業自立相談「ミ・ソラ」)

- ・はじめに、参加者の今後のキャリアについて個人目標を設定した。また、参加者それぞれの状況に合わせて、個別学習期間中も継続的にキャリアカウンセリングを実施し、サポートを行った。事業終了後には、今後のキャリアなどについてカウンセリングを行った。
- ・就業上のキャリア目標を明確に設定できない参加者については、自身の興味関心等をもとに学習カウンセリングを行い、当面の学習目標を定めて学習支援を先行した。

##### (b) 学習支援

###### ①学習カウンセリングの実施

(担当：一般財団法人学習能力開発財団)

- ・(a) で設定したキャリア目標に向けた学習目標・計画を作成し、教材を選定した。事業終了時までの長期目標と、概ね2ヵ月毎の短期目標を設定し、対象者と共有。学習の進捗やキャリア目標の変化などに合わせ、事業開始後も随時柔軟に対応した。
- ・開始時点の学力レベルを測定するため、学習目標に合わせてカスタマイズしたテストを実施。事業終了後にも同じテストを行い、学習効果を測定した。

###### ②個別学習支援の実施

(担当：一般財団法人学習能力開発財団)

- ・対象者ごとに①で設定した学習計画に沿って、学習を行った。
- ・実施したテストの結果、つまづきがあったレベルからスタートし、スモールステップを踏むことで、着実な達成感を得ることを目指した。

- ・当初参加者 2 名に対し講師 1 名で対応する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者 1 名に対し講師 1 名で実施。
- ・各回の学習の終わりには、講師が授業内容報告書を作成し、学習内容の振り返りと理解度の確認を参加者とともに行う。必要に応じて学習計画を修正し、学習のレベルやスピードを参加者に合わせて調整した。

場 所：エル・ソーラ仙台

回数等：月 2 回程度／1 回あたり 110 分

期 間：2020 年 7 月～2021 年 2 月（8 カ月間）

※学習期間はそれぞれの参加申込の時期により異なる。

### (c) 座学プログラム

(担当：エル・ソーラ仙台 管理事業課)

- ・自分の身体を大切にするリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を盛り込んだ座学プログラム等を実施した。受講効果を高めるため、ワークショップや体験要素も盛り込むなど、内容を工夫する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講義形式に変更した。
- ・一般公開講座とし、当事業参加者以外の参加も受け付けた。

	日時		テーマ・講師
①	2020 年 8 月 20 日 (木)	10:30～12:00	「人とのかかわり方」 門間尚子氏 (mia forza) 傷つきから回復するための心の持ち方や、他者との境界線の話などを、講師本人の体験を含めて伝えた。
②		13:00～14:30	「働く人の法律や制度」 松倉恵子氏 (社会保険労務士・松倉社会保険労務士事務所 代表) 労働条件のチェックポイントや求人票の見方、職場でのハラスメントについて紹介。
③	2021 年 1 月 20 日 (水)	13:30～15:30	「わたしのからだを大切に」 やはたえつこ氏 (助産師・NPO 法人ハーティ仙台 代表理事) 月経、更年期、ダイエットと女性ホルモンなど、女性の身体の仕組みや、体調を整えるヨガを紹介した。

#### (d) 就業体験プログラム

(担当：一般社団法人パーソナルサポートセンター、エル・ソーラ仙台 管理事業課)

- ・当初、生活困窮者自立支援事業を実施している団体と連携し、「仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ」が提供している事業に紹介する形で職業体験プログラムを提供する予定だったが、当該事業の枠組みと希望する参加者の状況が合わず、つなぐことができなかったため、急きよ当財団内での就業体験を設定した。(原則 1 人 1 回、2 時間)

#### (e) 若年女性支援情報交換会の実施

(担当：エル・ソーラ仙台 相談支援課)

- ・8月5日に若年女性支援情報交換会を実施した。情報交換会と合わせて講話「若年女性の抱える困難について」と、本事業の情報提供を行った。若年女性支援に資する講話を組み込むことで、本事業の対象者の背景理解やジェンダー視点の共有につながった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、感染症対策を実施の上、対面での情報交換会を行った。DV・性暴力被害者支援団体、被災地相談支援団体、生活困窮者支援団体、社会的養護アフターケア事業実施団体、居場所支援団体など、15 団体 17 名の参加を得た。

#### (f) 事業評価測定のための学習意欲・自己肯定感等のアセスメントの実施

(担当：事務局)

- ・本事業を通して、参加者の学習意欲、自己肯定感、就業意欲がどのように変化するかをチェックシートを使用し検証した。
- ・測定は、事業開始時、事業実施期間の中間、事業終了時に実施し、変化を検証した。

#### (g) 学習環境の整備

- ・希望者には託児サービスを提供し、子育て中の参加者が参加しやすいようにした。
- ・DV や性暴力の被害経験があることを想定し、キャリアカウンセリング担当者、学習支援者、事務局全てに女性を配置して参加者が安心して参加できる環境を整えた。

#### (h) 連絡会議の開催

- ・キャリア支援担当者、個別学習支援担当者の連絡会議を隔月で開催し、対象者の背景やそれぞれの支援状況を共有した。

(i) 事業終了後のサポート

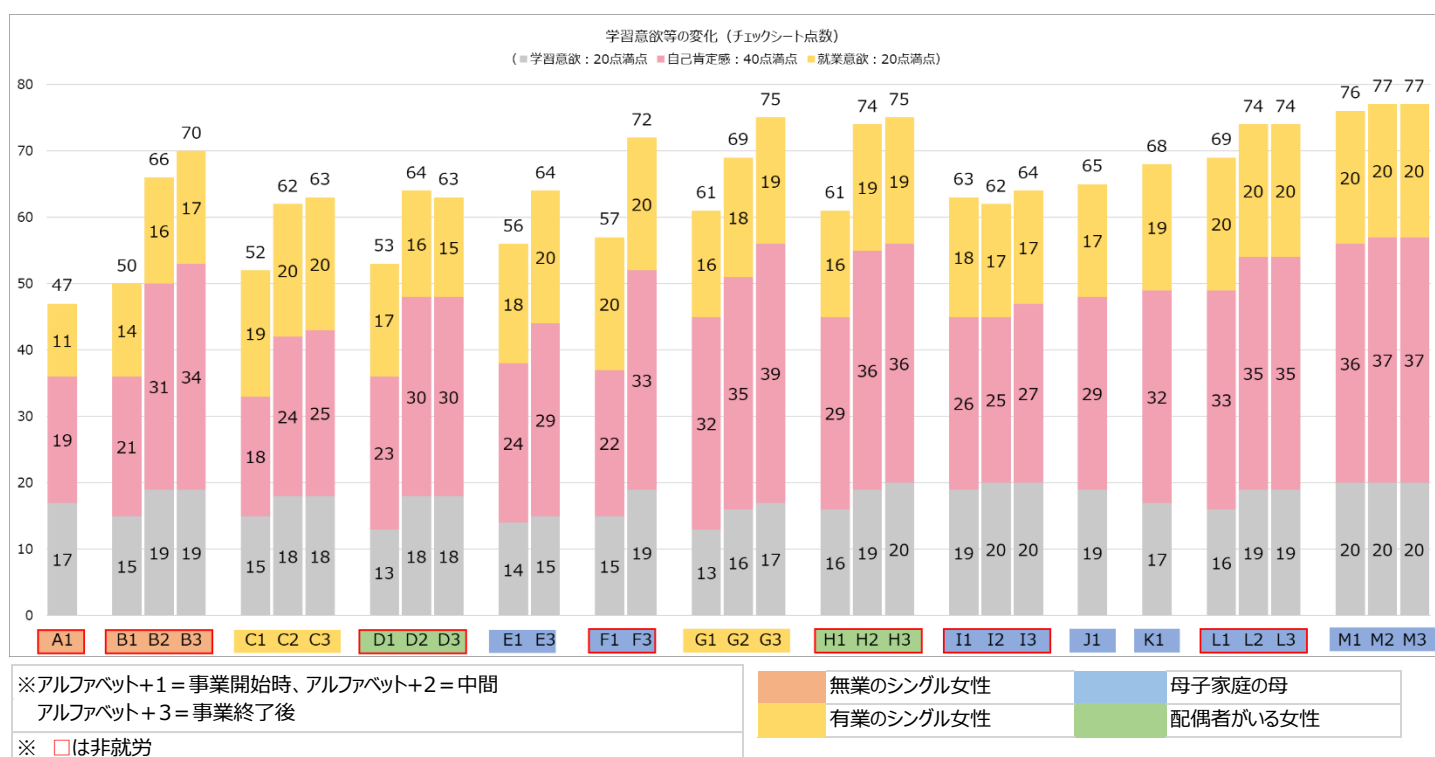
- ・本事業は、学び直しを通じたキャリア形成の最初の一步を伴走型の学習支援で後押しするものであった。事業終了までに個別目標が達成できない場合でも、キャリアカウンセリングを継続して行い、一人ひとりのキャリア目標が達成されるよう支援を継続している。

4. 事業成果・効果・課題等

【想定していた成果・効果の検証】

(1) 学習意欲の向上による自己肯定感の高揚

- ・各参加者の学習意欲・自己肯定感・就業意欲が、事業を通してどのように変化するか、チェックシートの点数の推移から検証した。
- ・チェックシートでは、学習意欲と就業意欲をそれぞれ5問で20点、自己肯定感を10問で40点とし、合計80点満点で点数化した。



図表 1 学習意欲等の変化 (チェックシート点数)

※無業のシングル女性は 20~30 代、有業のシングル女性は 30~40 代、母子家庭の母は 30~50 代、配偶者がいる女性は 40~50 代であった。

※事業開始時の総点数順に並べている。



- ・事業開始時には、概ね若年無業の未婚女性は学習意欲・自己肯定感・就業意欲がいずれも低く、総点数も低い傾向が見られ、母子家庭の母は高い傾向が見られた。
- ・事業開始時、事業実施期間の中間及び終了時に同内容のチェックシートによる測定を実施したところ、全員が事業開始時より上昇していた。
- ・事業開始時の若年無業の未婚女性の点数が低い（図表 1 参照）理由として、引きこもりや不登校の経験、周囲からの否定的な反応などにより自己肯定感が低く、それに伴って学習・就業意欲も低いことが考えられる。一方、母子家庭の母は、結婚・出産、就業等の経験により比較的自己肯定感が高いと考えられる。いずれのケースも、学習意欲の向上が自己肯定感の高揚や就業意欲の向上につながり、キャリア選択の幅を広げ、ステップを踏んでいくきっかけとなり得ることが実証できた。
- ・D,F,H はリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する座学プログラムに参加。B,D,F,H,I は就業体験プログラムに参加。ケース数は少ないが、上記数値と参加者の感想や印象の変化から、就業体験プログラムや座学プログラムへの参加が自己肯定感に好影響を及ぼしていると考えられる。
- ・事業の後半になると、自分の伝えたいことを相手に伝えたり、分からないことを的確に質問したりする力がついてきており、伴走型の個別学習支援における講師とのやりとりが、コミュニケーションのトレーニングになっていることが伺えた。他者との会話を通して、コミュニケーション能力を感覚として身につけることの重要性を改めて認識した。

## （2）専門的機能の連携による効果的支援

- ・昨年度までの参加者の困難な状況から、生活面での支援も含めた福祉関係の制度に詳しい支援団体との連携も必要であると考えたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、支援者経由の参加者が少なかったため、生活面での困難を抱えるケースは少なかった。
- ・事業提供団体間の連携については、学習支援担当者とキャリア支援担当者及び座学プログラム・就業体験プログラムの提供担当者が丁寧に情報共有をすることで、ひとりひとりにカスタマイズした学びの機会を提供することができた。
- ・当初、就業体験プログラムについては、「仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ」の就業体験実習へつなぐ予定であったが、当該事業の枠組みと希望する参加者の状況が合わず、つなぐことができなかった。そこで、急きよ当財団内での就業体験を設定（原則 1 人 1 回、2 時間）、5 名が参加した。これには、「仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ」の就業体験実習は希望していなかった人の参加もあった。

- ・ヒアリングの結果、就業体験先として、見知らぬ組織に足を踏み入れることへの抵抗感があり、キャリアカウンセリングと学習で定期的に通ってきているエル・ソーラ仙台内であれば安心して参加できる旨の発言が多く聞かれた。想定したスモールステップを更に小さく設定する結果となった。
- ・参加者の状況が様々であることを鑑み、プログラムについても内容やレベルを大小様々な大きさのステップを作り出す必要があり、連携先を幅広く想定する必要があったと考える。

### (3) 対象者の課題の可視化

- ・今年度新たに可視化できた課題として、「キャリア教育の不足」が挙げられる。不登校などでキャリア教育を受ける機会を逸した人たちや、学校におけるキャリア教育導入前の世代の人たちは、職業を理解したり、自分のキャリアについて考えたりする機会や経験が不足している。また、一定の年齢以上の人たちは、「手に職を」と刷り込まれ内面化してきた結果、本人の希望や向き不向きに関わらず、理容師や看護師などを選択する傾向が見られた。これらの解決のためには、一般的なキャリアカウンセリングで行われているような適職診断等だけではなく、これまでの2年間で見てきた以下のような女性たちの困難の背景にある課題に気づき、伴走していくキャリアカウンセリングが求められている。

#### (ア) シングルマザーの困難

子育て、介護、仕事など、いくつもの役割をひとりで背負っている母子家庭の母親は、非正規雇用から安定した仕事にキャリアアップしたくても、目の前の生活に必死でそのために使う時間がない。

#### (イ) 若年無業のシングル女性

若年無業のシングル女性の中には、いじめなどが原因で小中学校から不登校や引きこもりを経験している人が少なくない。引きこもりの状態にあっても、社会的にも家族からも「家事手伝い」とすり替えられ、社会的支援からこぼれ落ちている。

#### (ウ) 幼少期からの教育におけるジェンダー格差

親世代の子育てにおけるジェンダー意識が、子どもの学習機会に反映され、その後の人生においても影響を及ぼしている。

例) きょうだいが多く、経済的な理由から男兄弟の進学が優先され、本人は高校に進学で

きなかった。

#### (工) 基礎学力の不足

消費税の計算、時間の計算等、基礎学力の不足が生活や働くうえでの弊害となることがある。特に読解力の未熟さは、文書理解だけではなく人との会話にも及ぶため、コミュニケーションや対人関係の苦手意識につながっている。

#### (オ) からだや心の不調

虐待やDV・性暴力被害など、様々な傷つきから、からだや心の不調を抱えている人も少なくない。

#### (カ) 女性特有のジェンダー意識に起因する「揺らぎ」

「妻や母は自分のことより家族のことを優先すべき」という女性自身に刷り込まれたジェンダー意識により、自分のキャリアや踏み出す時期を自分自身で決められない人もいる。自分の存在意義を見出すことができず、男性に全面的に依存してしまったり、自分のからだを大切にする意識が持てないでいる人も少なくない。

#### (キ) 様々な葛藤

他者から期待され、自分自身もとらわれている「母役割」と、一人の人間としての「わたし」との間の葛藤や、長期的な将来の夢や希望のために時間を使うことと、自立に向けてすぐに就業することとの間の葛藤が見られる。

#### (4) 子どもの教育への好影響

- ・中学生の子どもを持つ参加者からは、会話がはずむようになり、休校期間中の自主学習に対する姿勢も変わったとの話が聞かれた。
- ・託児を利用して参加した母子家庭の母が3名いた。それぞれ2~3歳の子どもが3~6カ月間の託児を通し、母親以外の大人と接することができ、大きく成長したと感じる。子ども自身が、母親を応援するために自分も頑張っ待つという経験をすることができる。同時に、母親自身が子どもの成長を感じることができ、母親の前進への大きな後押しとなった。

## 【想定していなかった成果・効果】

### (5) 広報手段が変わったことによる新たな参加者層

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、支援団体経由の申込が少ないことを踏まえ、ホームページによる広報や、地元新聞への取材記事掲載など、新たな取り組みを行った。これまで、支援団体経由の参加者は、精神的、経済的困難など複合的な困難を抱えている人が多く、ある程度長期的に、生活面やリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点の学びなど、様々な支援が必要と思われることが多かった。一方、今年度ホームページや新聞を見て自ら参加を申し込んだ人は、経済的に困窮している状況ではなく、しっかりと方向性を見つけて自信を取り戻せばすぐに社会参画できそうな印象を受けた。「学び直し」という切り口によって当センターのキャリアカウンセリングにつながった事例ととらえている。

### (6) 対象者層ごとの支援の在り方

- ・新たな参加者層について、今回の参加者のケースから効果的と思われる支援についてまとめた。

#### 有業のシングル女性

- …非正規雇用からのキャリアチェンジを希望しているが、フルタイム勤務のため転職準備の時間が取りにくい、疲労感から気持ちを奮い立たせることが難しいなどのケースが見られた。定期的に学習やカウンセリングの時間をとることで、日常から切り離し、自分と向き合う時間を持つことが良い影響を及ぼしたと考えられる。

#### 配偶者のいる女性（再就職希望）

- …離職期間の長さから自信を失い、適職について悩んでいる。定期的なキャリアカウンセリングを積み重ねて自己理解を深めていくことが有効な支援であると思われる。

## 5. アンケート結果等

### (1) 座学プログラム

- ① 「人とのかかわり方」 2020年8月20日（木）10:30～12:00

申込 25名 参加者 17名

- ② 「働く人の法律や制度」 2020年8月20日（木）13:00～14:30

申込 18名 参加者 11名

※個別学習参加者のうち2名が参加

…事業の広報的位置づけとして実施。1名の参加につながった。

コロナウイルス感染症対策のため、参加者同士のワーク等は避け、講師の講話を中心に行った。

③「わたしのからだを大切に」2021年1月20日（水）13:30～15:30

申込23名 参加者20名

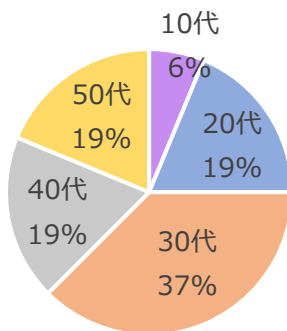
※個別学習参加者のうち3名が参加

…リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を盛り込んだ内容の講義及び体調を整えるワーク（ヨガ）を実施した。

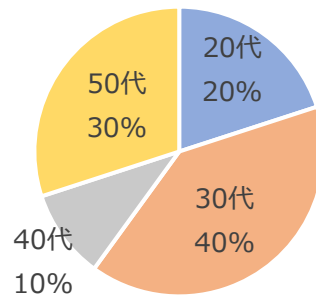
### <アンケート結果>

#### ◆参加者年代

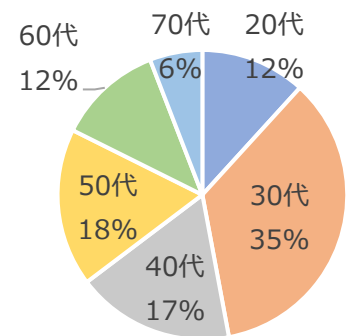
①「人とのかかわり方」



②「働く人の法律や制度」

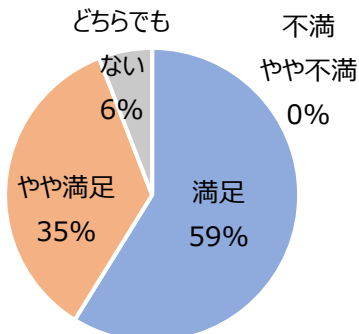


③「わたしのからだを大切に」

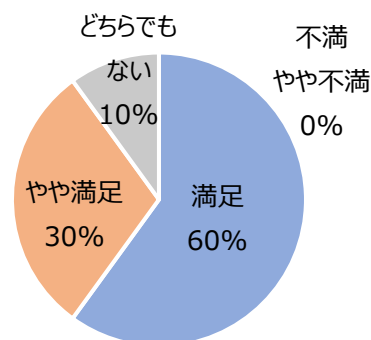


#### ◆参加者満足度

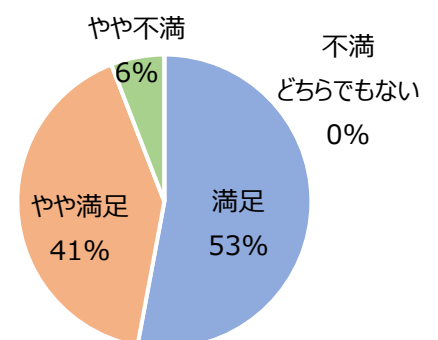
①「人とのかかわり方」



②「働く人の法律や制度」

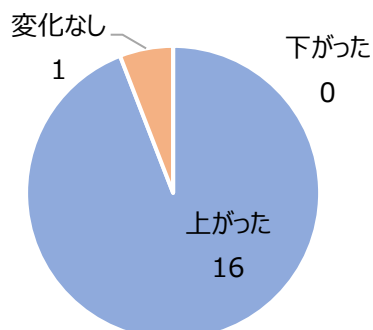


③「わたしのからだを大切に」

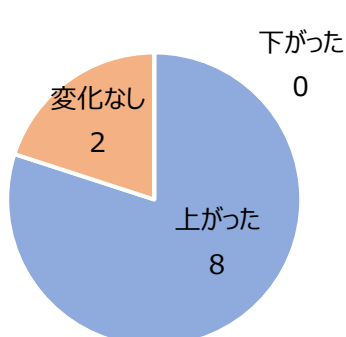


◆講座に参加する前後の変化（講座参加前と後の自分の状態を5（良い）～1（悪い）で評価）

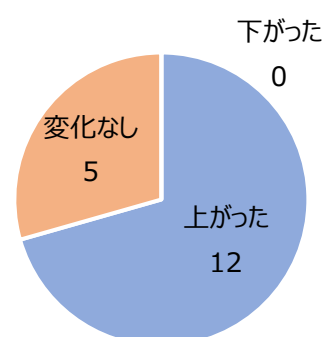
①「人とのかかわり方」



②「働く人の法律や制度」



③「わたしのからだを大切に」



◆感想等（自由記述）

①「人とのかかわり方」

- ・自分を見つめ直すきっかけになりました。いつも自分の感情を吐かずに閉じ込めてしまうので、「ポイ捨てセレモニー」を積極的に行っていきたいです。
- ・家族関係や職場の人間関係でかなり傷を負っていたので、今の自分にとって役立つありがたい内容でした。
- ・自尊心について、自分を大切に考えるヒントがあり、勉強になりました。講師の傷つき体験を伺い、回復された前向きな姿を拝見して、自分も頑張っていきたいと思えました。

②「働く人の法律や制度」

- ・正規雇用で働いたことがなかったので、労働についての法律や制度を学べて勉強になりました。
- ・パワハラを受けていたものの、それをパワハラと認識できずに苦しい思いをした経験があるので、パワハラについて時間を割いて解説をしていただき、とても参考になりました。

③「わたしのからだを大切に」

- ・女性としての自分をあまり考えたことがありませんでしたが、自分のからだを大切にしたい方いいと思いました。
- ・自分のからだのことについて、大切なことなのに知らないことが多く、勉強になりました。簡単に取り入れることができそうな食生活の改善から始めたいと思います。
- ・女性のからだ、婦人科の理解につながりました。子どもや友人、知人にアドバイスしたり、広めたいと思います。

(2) 就業体験プログラム

- ・当初は「仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ」の就業体験実習へつなぐ予定であったが、当該事業の枠組みと希望する参加者の状況が合わず、つなぐことができなかった。そこで、急きょ当財団内での就業体験を設定（原則1人1回、2時間）。声掛けをした時点で学習を継続していた10名のうち5名が参加した。

図表1 グラフ表記	就業体験実施日時	内容
I	12月25日 10～12時	パソコン入力作業
D	1月14日 14～16時	チラシ発送作業、図書架整理
H	1月26日 10～12時	チラシ発送作業、講座準備
F	2月 5日 10～12時	チラシ発送作業、図書架整理
B	1月22日 10～12時	ラベルシール貼り、図書架整理
	2月16日 10～12時	パソコン入力作業

【全体終了時アンケート】 ※最後まで学習を続けた10名分

1. それぞれのメニューについての感想

	該当数	◎良かった ←————→ 悪かった				
		5	4	3	2	1
キャリアカウンセリング	10	10	0	0	0	0
学習支援（学び直し）	10	10	0	0	0	0
座学プログラム	5	4	0	1	0	0
就業体験プログラム	5	5	0	0	0	0

(具体的に／自由記述)

- ・算数が苦手だったことにより蓄積されてきた劣等感がずいぶん軽くなり、新しい物事を前にしたときの「捉え方」が明るくなった。
- ・勉強のやり方を教えてもらい、苦手な勉強が楽しい、もっと学びたいと思えるようになった。頭が悪いことがコンプレックスだったが、学び直しをして努力している自分を好きになれた。

- ・就業体験を通して、少し自信がついた。
- ・就業体験はとても緊張したが、通いなれた場ということもあり、徐々に緊張が和らいでいった。

2.座学プログラムに参加した理由（複数回答可） ※該当 5 名

内容に興味があった	4
自分のためになると思った	4
日時がちょうどよかった	0
担当者にすすめられた	1
その他	0

3.座学プログラムに参加しなかった理由（複数回答可） ※該当 5 名

内容に興味がなかった	0
日程が合わなかった	3
すでに知っている内容だった	0
たくさんの方がいるところが苦手だから	0
新型コロナウイルス感染が心配だった	1
その他	0
無回答	1

4.就業体験プログラムに参加した理由（複数回答可） ※該当 5 名

就業のイメージをつかみたかった	4
自分がやりたい仕事（職種）が体験できると思った	2
就業に向けて具体的な行動を起こしたかった	2
その他	0

5.就業体験プログラムに参加しなかった理由（複数回答可） ※該当 5 名

すでに就労中だった	3
自分がやりたい仕事（職種）ではなかった	1
日程が合わなかった	1
新型コロナウイルス感染が心配だった	1



その他	0
-----	---

6.本事業への参加は、自分のこれからの生き方や働き方を考えるのに役立ちましたか？※該当 10 名

大変役に立った	9
まあまあ役に立った	1
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0

7.就業や転職に向けて、どんな支援があると前へ進めそうですか？（自由記述）

- ・ 様々な不安に対するアドバイス
- ・ この事業のような知識を増やす機会や、こまめなキャリアカウンセリング
- ・ 資格取得に向けた学習支援
- ・ 心の仕組みや整え方を学べるもの
- ・ 自分の考えや感じたことを整理していく場やプログラム（不安や焦りが続いていくと視野も狭くなり、考え方も極端になってしまうので）
- ・ 軽い運動をするプログラム（自分自身が運動習慣を身につけることで活動的になれたので）

※その他の感想等

- ・ 算数も国語も分からない私は、考えることを諦め、社会にいても底辺を選ぶようになっていたし、理不尽なことも諦めて生きていくしかないと思っていました。スタッフのみなさんや先生という頑丈な足場に支えられ、頑張ることができました。先生は、私ができるように一生懸命導いてくださり、毎回心と体のモヤが晴れていくように、「勉強が分かる」という栄養を与えていただきました。いつか大学に入りたいなんて思うようになりました。
- ・ 今までの人生で勉強をしてこなかったのが、頭が悪いということコンプレックスに感じていました。まなキャリに参加して先生に勉強を教えてもらい、私は頭が悪いのではなく、勉強をしてこなかったからできなかっただけだと思えることができました。それは私の中ではとても大きなことで、今後生きていくうえで、何かに挑戦するときや、経験したいと思っただけの足かせを取っていただいたと思っています。自分の中の必要のないものを解消できたり、大人になって学び直しができたことは、自分革命のように感じています。
- ・ 毎回楽しい時間でした。自分のための時間を使うことや、知っていたはずのことを知らなかったり、忘れていたり、いつも新たな発見がありました。中学2年生の子どもとの会話も弾むことが増え、自主学習に対する姿勢が変わったこともうれしく思います。

## 6. 参加者概要等

A 30代・シングル・無職
参加の経緯
ストレスが身体症状に出やすく、就労経験は短期のみ。消費税の計算や割増の計算ができず、就労に影響が出ていた。社会の仕組みの基礎的なことを理解したいと、昨年度に引き続き本事業に参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：4回（棚卸し、ストレスコーピング等） 個別学習支援：2回／2ヵ月間（政治経済） 座学プログラム①、②
事業を通じた参加者の変化等
定期的にかウンセリングを受け、事業実施期間中にアルバイトを始めるなど、積極的な面が見られたが、体調不良により途中でリタイアとなった。

B 20代・シングル・無職
参加の経緯
中学・高校も休みがちで、大学を数ヵ月で中退後、引きこもり状態になった。アルバイトを含めて就労経験無し。座学プログラム①に参加し、さらに前へ進みたいと本事業への参加を希望した。
支援内容
キャリアカウンセリング：6回（得意分野、キャリアインサイト等） 個別学習支援：12回／6ヵ月間（英語） 座学プログラム① 就業体験プログラム
事業を通じた参加者の変化等
事業に参加して、昼夜逆転の生活から脱することができた。対人関係への恐怖心が大きく、他機関の就業体験になかなか踏み出せなかったが、当財団内で実施した就業体験に参加し、手ごたえを得ることができた。周りのことをそんなに気にしなくてもいいという感想も聞かれた。事業終了後は短期のアルバイト就業を視野に入れ、キャリアカウンセリングを継続している。

C 40代・シングル・就業中（非正規）
参加の経緯
家庭内の環境が悪く、学校だけが安心できる場所だった。安心しすぎて眠くなってしまい、学習に身が入らなかった。算数や国語ができるようになって自分に自信をつけたり、職場で外国人に対応できるようになるため、英語を学びたいと参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：2回（職場の状況、悩みを傾聴） 個別学習支援：10回／8ヵ月間（算数・国語・英語）
事業を通じた参加者の変化等
基礎学力が不足していることに劣等感を感じてきたが、学び直しを通して「わかる」ことが自身の栄養になっているとの感想を寄せてくれた。 当面現在の職場で就労継続。多忙な業種であるため、すぐに活動できる状況ではないが、転職の希望があるので本人のタイミングでキャリアカウンセリングを行い、継続支援する予定。

D 50代・配偶者あり・無職
参加の経緯
看護師として勤務してきた経験があるが、点滴の滴下計算、消毒液の濃度計算などが苦手だった。独学で勉強したこともあるが、なかなか続かなかった。夫の転勤に伴い離職したが、再就職に向けて自分に合った働き方や仕事を見つけたいと参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：3回（キャリアインサイト等） 個別学習支援：10回／4ヵ月間（算数・国語） 座学プログラム③ 就業体験プログラム
事業を通じた参加者の変化等
対面で自分のペースに合わせて教えてもらえ、算数の計算ができるようになった。「できる」経験の積み重ねにより、蓄積していた劣等感が軽くなったとの感想を寄せてくれた。就業に向けて引き続き自身の棚卸しなどのキャリアカウンセリングを行う予定。

E 30代・シングルマザー・就業者（非正規）
参加の経緯
<p>中学時代ほとんど勉強しておらず、高校も1ヵ月ほどで中退。現在は非正規雇用の事務職で働いている。経理を担当しているが計算が苦手であること、将来的に転職をする際、高卒資格があった方が就職活動に広がりが出るため、高卒認定試験に向けた学び直しを希望し、本事業に参加した。</p>
支援内容
<p>キャリアカウンセリング：2回（職場の状況、悩みを傾聴等） 個別学習支援：4回／5ヵ月間（数学・国語）</p>
事業を通じた参加者の変化等
<p>託児を利用して参加したが、コロナウイルス感染への恐怖心もあり、学習回数を重ねることは難しかった。オンラインでの授業も提案したが、Wi-fiなどの通信機器がないなど環境が整わず実現できなかった。</p> <p>高卒認定試験のレベル到達までには、まだ時間がかかるが、本事業のテキストで引き続き独学を続けていく予定。</p>

F 30代・シングルマザー・無職
参加の経緯
<p>離婚後の生活のため就業に向けた準備を進めていたところ、傷つき経験から自己肯定感が非常に低い状態であることを鑑み、相談員が本事業を紹介し、参加することとなった。</p>
支援内容
<p>キャリアカウンセリング：5回（働き方、就労条件の整理等） 個別学習支援：6回／3ヵ月間（算数） 座学プログラム③ 就業体験プログラム</p>
事業を通じた参加者の変化等
<p>調停で精神的に落ち込んだところを学習の成功体験で少し持ち直す効果があったと思われる。仕事に役立つ計算や、電卓を使った計算方法も学ぶことができ、大きな自信につながった。</p> <p>引き続き就業に向けて母子家庭相談支援センターで支援を行う予定である。</p>

G 30代・シングル・就業中（非正規）
参加の経緯
コロナ禍で失業し転職したが、重労働であるため、更なる転職を目指している。安定した収入を得るため、准看護学校への進学を希望。独学してもなかなか理解できずにいたところ、本事業を知り参加を希望した。
支援内容
キャリアカウンセリング：2回（キャリアの振り返り、自己理解等） 個別学習支援：10回／5カ月間（算数・国語）
事業を通じた参加者の変化等
学び直しを通して分かることが増え、自信がついてきた。その自信は学習面だけにとどまらず、何かにチャレンジしたり、経験したいと思ったときに進んでいける原動力になると感じている。本人は「学び直し＝自分革命」と表現している。 今年度の受験も検討したが、不合格だった際の本人へのダメージや、学校側の印象を鑑み、受験は来年度にすることとした。現在、講師からのアドバイスをもとに独学で受験勉強を続けている。

H 40代・配偶者あり・無職
参加の経緯
子育てがひと段落し再就職を希望しているが、スキルがなく不安なため、何かの手がかりになればと参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：7回（キャリアの振り返り、価値分析、就業条件の整理等） 個別学習支援：9回／5カ月間（国語・英語） 座学プログラム③ 就業体験プログラム
事業を通じた参加者の変化等
キャリアカウンセリングを通して、子育てや地域の活動など、収入を伴わないキャリアで培われた能力についても自覚することができた。定期的に外出する機会を作ることで、家を空けることへの抵抗感がなくなり、就業に向けて加速がついたと思われる。引き続きキャリアカウンセリングを実施し、具体的な活動につなげていく予定である。

I 50代・シングルマザー・無職
参加の経緯
算数・数学がとにかく苦手で、エクセルを勉強したときも数学が必要で困ったことがある。仕事をしていく上で必要な力をつけたいと参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：4回（就職活動について傾聴、就業体験の振り返り等） 個別学習支援：11回／7ヵ月間（算数・国語） 座学プログラム①、② 就業体験プログラム
事業を通じた参加者の変化等
苦手な算数と、比較的得意な国語を組み合わせることで、本人の意欲が持続するよう工夫した。就業体験では、本人の希望に合わせてパソコンの作業を行ったが、改めて自分の得意分野とレベル感を確認することができた。現在、就業に向けて就職活動を継続している。

J 30代・シングルマザー・就業者（正規）
参加の経緯
友人に勧められて准看護学校の受験を考えていたところで、本事業の情報を得て参加を希望した。
支援内容
キャリアカウンセリング：3回（優先順位の明確化等）
事業を通じた参加者の変化等
キャリアカウンセリングを重ねる中で、今優先すべきは転職をして生活の基盤を整えることであると認識。転職活動に進むこととし、学習支援には進まなかった。無事に現職より条件のいい正規職で転職することができた。

K 30代・シングルマザー・就業中（非正規）
参加の経緯
何度かフルタイムへの転職を試みたがうまくいかなかったため、本事業に参加を希望した。
支援内容
キャリアカウンセリング：1回（優先順位の明確化等）
事業を通じた参加者の変化等
キャリアカウンセリングで、本人のやりたいこと、実現の方法などを多角的に検討した結果、起業も含めた転職活動に専念することとなった。

L 30代・シングルマザー・無職
参加の経緯
昨年度不合格だった看護学校の合格を目指し、本事業への参加を希望した。
支援内容
キャリアカウンセリング：9回（志望動機の深掘り、取得資格の変更、学費の工面等） 個別学習支援：18回／8ヵ月間（国語・英語）
事業を通じた参加者の変化等
当初希望していた看護学校が不合格となったため、キャリアカウンセリングを重ねて栄養士資格の取得に目標を変更した。短期大学の社会人枠に合格し、2021年4月から通学することとなった。

M 40代・シングルマザー・就労中（正規）
参加の経緯
看護師に転職するため、看護学校合格を目指している。学習面のサポートをしてほしいと当事業に参加した。
支援内容
キャリアカウンセリング：9回（志望動機の言語化、進路選択等） 個別学習支援：11回／6ヵ月間（数学・生物）
事業を通じた参加者の変化等
フルタイムで働き、子育てをしながらの学習を続けた結果、准看護学校2校に合格した。看護学校は2校が不合格、1校が補欠合格となったため、繰り上げを待ちながら、合格している准看護学校への進学手続きを進めている。